

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.229

逐次刊行物

18.11.02

国立女性教育会館
女性教育情報センター

「今の高校生ってなかなかいいよ」

●社会科の授業の一環として、「離婚と家族について」という都立高校の生徒たちの年1回の訪問を受け始めて何年になるでしょうか。

●今年は5人の高校2年生がやってきました。「パート労働と派遣労働」「フリーターという働き方」「男性と育児」というテーマもあって、それぞれ訪問先が違います。私のところに来た生徒たちに「なぜこのテーマを選んだの」と聞くと「うーん、すごく身近な問題だから」と答えました。「なるほど、そうなんだ」と言いつつ、私はこれまで訪ねてくれた生徒たちの顔を思い出していました。離婚後、母親に引き取られている男の子は面接交渉の話になった時、吐き捨てるように言いました。

「何で父親は養育費を送らなくてもいいんですか。うちの親も一銭も送ってこないんだ。あんな奴、俺は父親と思っていない。会いたいとは思わない。母がどんなに苦労して働いているか、わかってもしない奴なんて」。

●また別の年に来た女の子は、離婚後母親と二人暮らしだったのが、その母親が亡くなって一人で暮らしていると言いました。一緒に来ていた同級生たちもびっくり。その子たちは高校1年生で、入学から2ヶ月足らずで、違う中学からきた同級生の家庭事情は知らなかったんですね。

「受験のちょっと前に母が死んで、父と一緒に暮らすかと言ったけど、私は母との家で一人で大丈夫だと」。

●訪問授業とはいえ、一般論だけですますわけにはいかな

い問題を突きつけられ、生徒たちとの時間はいつも一緒に話し考える、緊張感あるものとなるので、私はたとえどんなに忙しくても喜んで時間を取ってきました。

●今年の生徒たちは特に核心をついた質問を次々にするし、茶髪、スカートの長さ、言葉遣い、化粧等々外見とは無関係にどの子もしっかりと、愛とお金、子どものトラウマ、女性の雇用や経済力、家族について考えていました。

養育費を2割の父親しか払ってないことについては、「男ってサイテー!」と言い、女性が妊娠出産後も仕事を続けるための環境整備の必要性や、養育費・財産分与等で女性や子どもが不利にならないための法整備についても、何よりも人と人の関係を築くことの重要性もしっかり理解してくれました。

さらに10代の結婚・妊娠についても話が弾み、中絶させたり、退校させたりというよりも、しっかり子どもを育てられるよう、学校にも行って経済的自立を図れるように社会が応援していくことの必要性なども話し合いました。

●高校生は、経済的自立ができていないだけで、立派な大人です。彼女たちがどんなレポートを書いてくれるかが楽しみです。これからの就職や家族形成にあたって、「女性や家族を取り巻く状況」をしっかり認識し、人生を大事に生きていってくれるに違いないと思いました。

●それよりも、また会って話をしたいなという思いを強く持ちつつ、次の会合に向かった私でした。 (円より子)



冷えた
ビールと
豆
さあ
乾杯
うーん
生きた

●Hand in Hand 第229号 【発行日】2006年7月1日
【発行人】ハンド・イン・ハンドの会 (代表 円より子): (株)現代家族問題研究所内
【編集人】向井通江 長島千春 藤岡郁子 【印刷】(株)ニシカワイノベーションサービス
【連絡先】〒102-0082 千代田区一番町4-42-6F TEL:03-3261-1835 FAX:03-3261-1836
<http://www.madoka-yoriko.jp/> <http://www.gendai-kazoku.jp/> nojiri@kazoku-mondai.co.jp

■公開講座「熟年離婚と年金」より講演録■

(2006年3月21日)

離婚前後の精神的ストレスとそのケア



きっかわ たけひこ
吉川 武彦

熟年離婚のこころの危機はどのように訪れるのか どう防いだらいいのか

*中部学院大学大学院人間福祉学科／教授、国立精神・神経センター精神保健研究所／名誉所長

*1935年生まれ。精神科医。臨床、研究、行政、教育、地域活動に従事した。社会福祉法人江古田明和会理事長、東京国際音楽療法専門学院学院長、NPO法人岐阜GSA特別顧問、東京多摩いのちの電話研修講師など。

*近著に、『引きこもりを考える』NHKブックス、『ゆううつ症候群』法研、『いま、こころの育ちが危ない』毎日新聞社、『人はなぜボケるのか』新星出版、『居心地のよいこころをつくる本』大和書房、『管理職のためのこころの健康法』ぎょうせい、『うつ病(監著)』法研、等。

●はじめに

私は「離婚相談の専門家」ではありません。ストレスから来る“うつ”などのご相談を受けるうちに、ご夫婦の関係の問題がその根底にあって、離婚相談に発展することがあります。ただ、精神科医という仕事柄、こうした相談にあずかっているうちに見えてきたのは、離婚問題を抱えて悩んでいる方の「悩み」は、①子育て問題、②経済的な問題、③世間体の問題に大きく分けられるということです。

本日は、長年の友人の円さんから「熟年離婚」に的を絞って、その精神的なストレスをどのように乗り越えていけばよいかについて話すよう命じられました。

熟年離婚は急速に増えてきているようで、それに関する相談も数多く入るようになってきています。そのほとんどは②の経済的な問題ですが、これはとうてい私の力の及ばない問題ですし、熟年離婚の場合には①の子育て問題はほとんどなく、ちらほら出てきているのが“引きこもりの子”を持つ熟年の親の離婚ですが、本日はこれらの問題は取り上げません。熟年離婚に深く関わるのは③の世間体の問題ではないかと考え、自らのこころの問題をしっかりと見つめていただいた上で、熟年離婚前後の精神的に不安定な状況をどのように乗り越えればよいかという視点で、お話ししたいと思います。

人間は大きなストレスを感じている間は、精神活動がまともには行われません。ある結論を出そうとしても、なかなか出すことができないからです。従って、ストレスをなんらかの方法で解消するか、どこか脇に置くことができれば、自分の心がうまく活動できず問題解決に向かえないということを、まずわかって

いただきたいと思います。そして、離婚だけでなく、あらゆるストレスにしっかりと対処できる人間になって欲しいと願います。

●熟年世代の生きてきた時代背景

最初に、「熟年」とは、どのような年代をいうのでしょうか。ここでは、社会生活を40年間送られた方、つまり今60歳代の団塊の世代の人を前提にお話していきます。この熟年世代が、これまでどのような時代を生き、どのような生活を送ってきたか、その社会的背景から見ていくことにしましょう。

戦中・戦後生まれのこの世代が育ったのは、日本が近代工業化の道を邁進し、「スピード」「生産性」「管理化」「画一化」を合言葉に大量生産が行われた時代です。また大人になっていくとき、「早く」「頑張って」「しっかり」「皆と同じ」「迷惑をかけない」「自立する」ことがよしとされて育ちました。大人になってからの社会生活の前半20年、つまり20代から30代にかけては「男は外で・女は内で」という時代でしたが、続く40代からの20年は、女性も社会に出て「女はパートで」と変化しました。同じ時代を生き、同じ波をかぶりながらも、その中でお互いがどのように翻弄されて生きてきたか、よく考えることが大切です。夫婦ともども同じ時代を生きてきたはずなのにとお思いでしょうが、実はかなりずれているのではないのでしょうか。そこに熟年離婚の原因のひとつがあるかもしれません。

合理性を追求される社会で、知的な機能を重視して生きてきた熟年世代は、自分たちが育てられたのと同じ価値観で子育てをしてきました。その第2世代の子どもたちが今20代から30代後半となって親となり、

また同じような子育てを繰り返しています。その中で、第3世代の子どもたちの心がうまく育たないという問題が起きてきています。つまり、親も子も、つるつるとして丸い、外面のきれいな「ピー玉人間」になってしまったために、互いに心が絡み合わず、助け、助けられる関係を築くことができなくなってしまっているのです。

もっともストレスフルなのは人間関係ですが、ストレスを解消するものまた人間関係です。つまり、ピー玉人間が増えて人間関係にひっきりが少なくなり、あっさりとしてしまった今だからこそ、うまくストレス解消ができずに「こころの危機」に陥りやすい人が増えたのではないのでしょうか。

●こころの危機をどうやって防ぐか

「こころの危機」とは、無意識的な心的機能を円滑に使えなくなる状態です。人間は、いつも意識的に自分のこころをコントロールできているわけではありません。これを自覚することによって、自分のこころをコントロールできる幅を広げることが大切なのです。現代は、逃避することを許さない社会のように思えます。逃げ場がなくなって切迫したときに、こころの危機は訪れます。親世代は、自分だって逃げたことがあるのに、子どもには「逃げちゃダメ、私も逃げなかった」などと追い詰めてしまい、子育てがへたになっているのです。追い詰められたときは逃げたってかまわない、もやもやした場面や問題から逃避できることは大切なことなのです。

また、人間関係がブツブツに途切れていますから、追い詰められても攻撃する相手がいません。ちょっと相手を攻撃するだけで、ずいぶんスッキリします。相手だって攻撃し返して、互いにスッキリすればよいのです。

自分の身近に起こった問題で抑圧されたり、そこから逃げ出すことが不可能だと感じた時には、その問題をちょっと脇に置いてみるのが大事です。自分の心的機能を意識的に使って、ちょっと考えるのを止めてみればよいのです。それができないと、事態が自分を押しつぶしますから、「私はこうだったのに」と自分の気持ちを相手に押し付けるばかりになります。「あなたもそうなの」と相手の気持ちを引き受けて、「私もよ」と共感を持つ気持ちになれないわけです。

カウンセリング・マインドでは、まず相手の気持ちを引き受けることが重要とされている所以です。

●ストレスを知り、解消するには

ストレスとはどういうものなのでしょうか。脳の中心部にストレスがかかると、睡眠や胃の働きなどが正常に機能しなくなるなど、身体に影響が現れます。これは脳自体の働きではなく、中心部の身体やこころの調節機能をつかさどる部分、脳幹がうまく働かなくなるからです。ストレスを解消しないと脳が壊れていき、精神的に不安定になって、抑うつ状態に陥り、ものがしっかり考えられなくなります。ですから、脳を休ませるため、中心部の脳幹をまず休ませましょう。医者に相談してちょっと薬を使ってでも、早く休ませたほうがよいのです。休んでから考えるのです。自分で解決しようと脳を使うと、いつまでたっても脳はもとより脳幹を休めずに、どんどん泥沼にはまり込んでいってしまいます。

では、ストレス解消のためには、どのような工夫ができるのでしょうか。

まずは、自分の性格をよく知ることです。相手に合わせ過ぎてしまう「過剰適応タイプ」、一生懸命になり過ぎる「燃え尽きタイプ」、自分に自信が持てない「自信欠乏タイプ」など、ストレスをためやすいいくつかのパターンがあります。

そして、ストレスの対処パターンを認識することです。相手が弱ければ「真正面から対峙する」、相手が強ければさっさと「逃げる」、相手の力がよくわからなければ見極めながら「さりりとかわす」。この三つを問題別に、自分の力との兼ね合いで使えばよいのです。

また、危機に際して安定的に生活するためには、いくつかのストレス解消方法のうち、どれを使ったら楽になるか知っておくとよいでしょう。口を使って「食べる・飲む・話す」、身体を動かす、ごく短時間でも趣味や好きなことに「熱中・集中する」のも効果があります。

●熟年離婚前後のメンタルケア

熟年離婚前後には抱えやすい問題、陥りやすい危機が大きく3つあります。それぞれのこころの危機に対処するために、各3人の相談者、つまり3×3人＝9人の相談者を持つことで、メンタルケアが楽になります。

- ①比較的自覚しやすい「肉体的な危機」に関しては、性にまつわることが話せる友人・保健師・専門医を。
- ②自覚しにくい「精神的危機」に関しては、気分の落ち

込みを支えてくれる人・軽いボケを相談できる人・精神科医を。③自覚が必要な「社会的な危機」に関しては、制度や仕組みに詳しい人・経済に詳しい人・弁護士を。たとえ精神科医や弁護士を直接は知らないにしても、人を通じてたどっていける道を作っておくということが大切です。

また、産業精神衛生という領域では、働く人たちの働く場におけるストレスの問題を検討したときに抽出した4つのケアの方法(SLSS)があり、これを知っておくのも参考になります。

①S「セルフケア」とは自分の特性を考えて自分自身であるケア、②L「ラインケア」は自分が持っている家族や友人などの人材を動員して進めるケア、③S「スタッフケア」はカウンセラーや精神科医などの専門性の高い知人によるケア、④S「資源によるケア」は病院や保健所あるいは相談センターなどの公的な施設でのケアを指します。離婚に際しては、④の施設やサービスに関する情報を得て、利活用することも大切です。

●ストレスの少ない別れ方を

出合って別れていくのが人だとすれば、結婚もひとつの出会い、別れることがあるのは当たり前のことです。熟年離婚とは長い出会いのあとの別れと考えれば、難しく考えなくてもすむのではないのでしょうか。縁があって結ばれたけれど、縁が薄くなって別れ、それぞれが「自分らしさ」を取り戻していくだけのことと考えたいものです。自分をしっかりと持ち、自分を大切に、自分が壊れてしまわないようにどう生きるかを選び取りましょう。

そうはいつても、離婚はかなりのストレスであることは事実です。危機に対応するために「事前の準備」「渦中の対応」「事後の処理」もしっかりと、柔軟性を持って立ち向かわれますよう。本日の私の話が、少しでも皆さんのお役に立てたようでしたら、嬉しく思います。

BOOK REVIEW

◆「できる! シングルマザー生活便利帳」◆

[山海堂/新川てるえ & 田中涼子 著/1,500円+税]

サブタイトルに「ひとり親家庭サポートBOOK」とあるように、明るいシングルマザー生活を送るために役立つ制度、施設、法律などを豊富なケーススタディと共に紹介しています。巻末には、関連イエローページや養育費の算定表も添付されている実用本。

著者は、ひとり親家庭の子どもの健全育成を推進するNPO法人Wink理事長の新川てるえさん。シングルマザーの支援団体の一つとして「ハンド・イン・ハンドの会」も「離婚がスティグマであった時代から、離婚を人生の一つの出来事として捉え、交流や情報交換、法律や制度を変える運動も行っている」と紹介されています。

※

円より子の著書(一部)を紹介します

◆「30代は二度こない～子どもとキャリアどちらも欲しい」◆

[ミネルヴァ書房/1,800円+税]

現代の少子化社会の中で子どもをどうとらえるか、同時に自身の子育て体験のエピソードも交えて紹介した「子育ての仕方がわかる本」。シングルマザーの子育ての悩みにも答えています。

◆「ママの離婚」◆

[ちくま書房/524円+税]

両親の不和、別居、離婚に悩む子どもたちのつぶやきを通して、子どもへの離婚の影響を小さくする方法が会得できます。

◆「子どものための離婚講座」◆

[有斐閣選書/2,000円+税]

離婚に直面して悩む両親と、離婚した両親を持つ子どもの側に立って、子どもの心身の健全な成長と幸福を保障するために、どのように離婚を進めていけばよいか、制度とその利用の仕方に関する知識や情報を紹介。離婚後の生活に対するアドバイスも。

◆「四〇歳からの夫と妻の向きあい方」◆

[大和書房/1,300円+税]

人生80年時代の幸せな結婚とは? 夫が停年をむかえる前に夫婦の関係を見直して、子育て後の暮らしを充実させる処方箋。

*お近くの書店に在庫がない場合は事務局へ、または公立図書館で。



◎「私の人生、これからどうする?」◎

～お手紙・手記を 募集します!～

離婚直後は、子どもとの生活を支えることで頭がいっぱい! 自分自身の心の整理や生き方のことは後回しにして、突っ走ってきた10年、20年、30年……ふと気づいたら、子どもは巣立って、そろそろ停年。さて、これからの私の人生、どうしようか。

家計は何で支えよう/どこに住もう/継続中の恋の行方は/生き生きと暮らしていくには/老々介護が不安だな/今の生きがいはこれ/これから始めたいことがある/今さらかもしれないけれど別れた夫とのこと振り返って整理しておこう/子どもがニートでなかなか自立してくれなくて困ったな、etc.

そんなあなたのこれからの人生に関するアレやコレやお寄せ下さい。前向きなお話だけでなく、不安やグチも遠慮なくどうぞ。

- 「手記」または「誰かに宛てた手紙(誰宛かを明記)」の形で
- ハンド紙に掲載の際、実名がイニシャルかペンネームかを明記
- 10月中までをめぐに事務局へ、郵送、FAX、メールで

◎ 離婚の電話“法律”相談 ◎

ハンドの会では毎土曜日に電話相談「離婚と母子の110番」を無料で、研修を受けた相談員が行っていますが(詳細は8面を参照)、特に“法律”に関する内容であれば専門家である弁護士に相談されてはいかがでしょう。

弁護士の榎原富士子さんが、下記の要領で無料の「離婚の電話法律相談」を毎月1回行っています。日時は、直前の予定変更がないかホームページでご確認ください。

■7月15日(土)、8月19日(土)、いずれも午前10～12時

■TEL:03-3512-0536(榎原富士子法律事務所)

■http://www.geocities.jp/gender_law/

■1件10分以内、短時間なので複雑な相談は不向き、最初に名前(仮名OK)・年齢・何県在住・何に関する相談かを伝えて下さい



— 7月29日(土)～30日(日) —

テーマは「子育て後の生き方について」

子育てが一段落した会員が増えています。子育て真最中は、養育費や面接交渉など、目の前の問題解決や、ひとり親家庭を経済的に支えるために、日々、忙しく過ごしていたことでしょう。自分自身の余生や老後と言うにはまだ早いかもしれませんが、子どもが独立した後、昔流行った「空の巣症候群」にならないためにも、生きがいのこと、年金・仕事・住居といった経済的なこと、または恋愛・再婚のことなど、一緒に考えてみませんか？ 子どもの就労に悩んでいる方も

いらっしゃるのではないのでしょうか。

ハンドの先輩方のお話あり、円より子のお話あり、きっとあなたの参考になる情報に出会えると思います。いま抱えている悩みをぶつけて、アドバイスをもらえる場にもなるでしょう。会場の周りは緑豊かな場所ですから、リフレッシュもできますね。

この機会に、仲間とのネットワークを広げ、役立つ情報も得て、今後の生活を楽しく豊かにしませんか？ 皆さん奮ってご参加下さい。

◆プログラム◆

■7月29日(土)

13:00～受付 (研修棟ロビー)
13:30～14:00 円より子あいさつ
14:00～15:00 自己紹介
15:00～17:00 座談会「子育て後の生き方について」
ハンド世話係数名×円より子

17:00～19:00 夕食、入浴

19:00～21:00 懇談会

■7月30日(日)

7:30～8:30 朝食

9:30～12:00 「子どもの教育・就労について」

講師：円より子さん

◆申し込みの詳細◆

◎会場：国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)

東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩15分

◎定員：大人35人、子ども10名

◎参加費：大人4,000円(1日参加2,000円)

子ども保険料込3,000円(1日参加1,500円)

※いずれも宿泊費、懇親会費込

※食費、交通費は別途負担

◎その他：洗面道具、タオル、寝間着等、各自持参

◎申込：申込金1,000円を添え、住所、氏名、生年月日、電話番号を明記し、7月25日(火)までに事務所・長島まで。申込金はご返却できません。

ベビーシッターさん
大募集!!



弁護士二一〇番

婚姻費用分担の
調停を申し立てて
別居中の生活費確保を



《回答者》
弁護士 松山理香
☎〇六・六二・三〇一五・六二〇

A 調停は、離婚することに
ついて、夫婦のお互いの合
意ができた場合に、離婚が
成立することになり、夫婦の一方が
離婚を望んでも、他方が離婚す
ることに反対の気持ちを持ってい
て、離婚をするというお互いの合意
とはありません。

来年は上の娘が高校受験で、下の
子も含めまだまだ教育費がかかりま
す。私には資格もなく、働いても16
万18万円位にしかならないとすれば
どうすればいいか途方に暮れるばか
り。せめて100万円位貯めてから
離婚届に印を押そうと思っていま
す。相応の養育費も取り決めたし、
夫にローンを払い続けてもらえるで
しょうか。

Q 36歳女性です。47歳の夫
とは結婚13年、中2の娘と
小5の息子がいます。夫が
浮気をして出て行って3ヶ月が経
ち、夫の方から調停を申し立てられ
ました。1回目が終わりましたが、
夫は貯金はない、養育費もたくさん
は払えない、家のローンは払うが妻
名義に変えて欲しいと言ってきました。
夫は再婚で前妻との間には子ど
もがあり、養育費を払っています。
給料は手取りで月35万円。ローンが
2000万円残っていて、夫が払い
続けるとは思えません。夫は調停委
員に「自分の浮気癖は病気で治らな
い」と言ったそうです。

夫は、家のローンは払うが妻名義
に変えて欲しいと言っていること
とですが、ローンの名義を妻にして
欲しいということでしょうか。もし、
そうであれば、あなたが心配される
ように、ローンを払い続けてくれる
か分かりませんが、ローンの支払を
強制することもできませんので、ロ
ーンをあなた名義にすることは避け
ましょう。

また、離婚訴訟を起こされたとし
ても、あなたの夫が、自分が不貞行
為をしたからといって離婚を請求し
て、裁判所で認められるということ
は、原則はありません。例外的に認
められる場合もありますが、あなた
の場合は、該当しないと思われます。
ですので、ご質問のように、あな
たが離婚届に印を押そうと思った時
点で離婚をするということの問題あ
りません。

その場合、離婚は少し先になると
思いますが、今、生活費は、夫から
払われていますか。もし、払われて
いなければ、生活費を請求する権利
がありますので、まず、婚姻費用分
担の調停を申し立てましょう。そこ
で、離婚までの間、夫から支払われ
るべきあなたと子らの生活費の取決
めをすることが出来ます。実際は、
今されている調停と一緒に進められ
ることになります。婚姻費用分担
の調停を申し立てておけば、話し合
いがまとまらなければ、審判で決め
てもらえます。

《家計簿公開》

第159号 山口県 H・Yさん

〔家族構成〕

私 29歳(専業主婦)

息子 3歳

母 55歳(入院中)

《家計簿内訳・2006年5月分》

★収入★

生活費(夫から振込み) 200,000円

生活雑費(弟から手渡し) 100,000円

合 計 300,000円

★支出★

食費 100,000円

交通費(ガソリン代含む) 15,000円

医療費(子ども) 5,000円

被服費 20,000円

雑費(母に頼まれる小物等) 50,000円

雑費(子ども関連) 10,000円

美容院・エステ 15,000円

合 計 215,000円

(※光熱費などは、実家の通帳から引き落とされているため不明です)

〔住居〕

実家に居候しています



離婚を、自分の本当の人生のスタートだととらえて行きたい



◎夫から突然の離婚の申し出

離婚調停に入るところです。いわば晴天の霹靂のように夫から離婚を切り出されたのですが、振返ってみると仕方ないことのようにも思えます。息子の親権のことさえ片がつけば、きっと、このまま離婚を受け入れることになるのでしょうか。

今はまだ、今後の生活設計など、まるで考えていません。というより、考えられないというのが本音です。身を寄せている実家の母が、肝臓ガンで入院しており、余命数ヶ月と言われています。父も2年前に心筋梗塞で倒れ、突然死に近い形で亡くなりました。今は、3歳の息子連れ、母の世話をしに病院通いの日々で、自分と息子の今後について、考えたり準備をしたりする心の余裕も時間の余裕もありません。

幸いにも経済的には逼迫していませんので、すべては母を看取ってから、と考えています。ただ、不安材料はたくさんあって、考え始めると押しつぶされそうになるため、母の看病をよいことに、今は思考を停止しているだけなのかもしれません。

◎実質的な結婚生活は半年・・・

正直言って、これまで自分で判断して動かなければならない現実につかたこともなく、金銭的にも恵まれた人生を送ってきました。実家は花屋です。といっても社員を30人以上抱え、教室経営や店舗のインテリア契約、小物の販売など、けっこう手広くやっていて、自社ビルの1階が小売の花屋、2、3階が事務所、4階が住まい。父の死後は、1歳下の弟が会社を継いでいますが、車で10分のところに家を建てて家族と住んでいるため、今、実家に住んでいるのは私と娘だけです。

小さい町で、地元の名士である父と専業主婦の母の元で育ちました。弟と2人兄弟です。大学4年間は地元を離れましたが、卒業後、実家に戻り、家事手伝いとは名ばかりで、お稽古事とお見合いを繰り返していました。

3歳年上の夫とは24歳の時に見合い結婚しました。隣接する市の旧家

の次男で、大手企業に勤務。次男ということ、結婚後は地元ではなく勤務地に住むということ、また、2人も学生時代はコーラスをしていたことから好感を持ったんです。それまで男性とお付き合いしたことはありませんでした。

結婚後、勤務地の社宅で新居を構えましたが、半年後にシンガポールへの海外赴任が決まりました。私はちょうど妊娠3カ月で不安定期でしたので、夫だけ先に任地に赴き、6カ月の安定期に入ってから後を追いかける形に。でも、現地の気候が私の身体に合わず、翌月には帰国して実家出産。息子が6カ月になってからシンガポールへ行きましたが、息子のアトピーがひどく、1カ月後にはまた息子と帰国することになったのです。夫も現地ではメイド付きの住まいで暮らしに不自由はないため、快く送り出してくれました。私にしても、実家にいれば母が子育てを手伝ってくれて楽でしたし、息子のアトピーと軽い喘息を理由に、結局、実家にそのまま居着いて、夫は実質的に海外単身赴任で4年近くが過ぎました。

その間に実家の父が急死し、精神的に弱った母を残しては行けなかった。でも、それも今となっては言い訳かも。お嬢さん育ちで甘えの抜けない私が、嫁に行ったという自覚なしに、楽な生き方を選んでいただけかもしれません。振返ってみれば初対面に近かった男女が夫婦として一緒に暮らしたのは最初の半年だけ。確かな愛情や絆、夫婦としての自覚が育つ前に、離れて暮らすことになり、出産後も年に2、3度、夫が帰国した際に顔を合わせる程度でしたから、もともと薄い関係が途切れる方向へと向かうのは必然だったのかもしれない。

でも、昨年の暮れに一時帰国した夫に突然、離婚を切り出されたときは、一瞬、何を言われているのか理解できず、次に「私の母の命が危ない」とわかったこんな時に、なんて非情な人なんだ」と怒りが湧きました。「あなたのことが嫌いになったわけではない、できるだけ慰謝料は出す、子どもだけは引き取らせて欲しい

い」と言われて、さらに混乱しましたが、後から彼の実家が子どもを引き取りたがっているとわかりました。長男夫婦が10年近く子どもに恵まれず、跡取りを確保しておきたいということなのでしょう。でも、家のために子どもを引き取りたいという夫に、無性に腹が立ちました。

思い返してみれば、夫はいつも彼の実家の言いなりでした。私の両親にも優しく接してくれていましたが、お坊ちゃんの優柔不断の裏返しだったかもしれません。いずれにしても、夫の人間性を深く語れるほどには彼のことを知らないんです。両親に代わって自動的に私を養ってくれる人のように受け止めて、これまでの日々を過ごしていた私にも否があったと、今は思っています。だから、離婚はしかたないことだと受け止めています。

でも、子どもに関してだけは譲れない。慰謝料も養育費もいらない、親権だけは欲しいと訴えています。

◎始めて知った現実の厳しさ

今、毎日のように母の病院通いをする中で、これまでは話したこともないような方と接する機会が増えていきます。離婚してシングルマザーとして働いていらっしゃる看護師さん、清掃のおばさん、付き添いの方々、闘病中の患者さん。年齢も人生経験も様々な方々が、小さな子ども連れの私に声をかけて下さいます。その方々とお話する中で、自分がいかに甘いか、思い知らされています。

「慰謝料も養育費もいらないなんて言ってはダメ。実家が傾きでもしたら、どうするの。仕事経験もない女性が、小さな子を抱えて食べていくための職を探すのはたいへんよ。世間はそんなに甘くはない」という言葉が胸に突き刺さります。

その通り、どこかで私は、離婚してもこのまま実家に置いてもらって養ってもらえる、と思っていたんですね。でも先日、弟に、事業が行き詰まって多額の借金を抱えていると聞かされると同時に、事業資金の足しにするため自分の家は売って、母が亡くなったら実家に家族で住みたいと言われました。私と息子の居場所はない、自立して欲しいと伝えられたわけです。弟の会社で雇ってもらうことも打診しましたが「苦しい時期に、戦力にならないのに身内を雇

うことは、頑張っている社員の手前、できない」とはっきり言われました。いまはまだ、お互い口には出しませんが、財産分与に関しても多くは望めないのかもしれませんが、せめて、小さくても住む家を手に入れられ、息子の将来の学費になるくらいのものは分与して欲しいと願っているのですが…。

幸いにも、お茶・お花の師範免状は持っていますので、住まいと息子の学費さえ確保できていけば、なんとかやっていけないかとも考えますが、周りからは「甘い」と一喝されます。パートをしてでも働くという気概は私にはありませんし、何か資格を取る勉強を始める気力も今はありません。親の知人のツテをたどって、どこかの会社の事務職に雇ってもらえないかと願っていますが、それも地方の田舎の不景気な状況では、弟の会社同様に無理なのかも。かといって、都会に母子で移り住むのも、経済的にはもっと難しそうです。今は病床の母にこれ以上心配をかけないように、涙を見せないのが精一杯。無邪気な息子に母も私も救われていますが、今後の不安と思案は堂々めぐりを繰り返しています。

◎家計管理の経験はなし

家計に関しては、夫からの生活費は今も月々、きちんと定額が振り込まれています。でも、実際には実家の家計内で暮らしているようなもので、娘時代の延長のお小遣い感覚で使っています。恥ずかしいのですが、結婚してから家計管理はしたことがありません。すべて夫まかせで、ファミリーカードも昨年末に

★ご自分でも気づかれていますよう、恵まれすぎていて、自立のチャンスも、大人や親としての自覚もないまま過ごして来られたのね。肉親の死や離婚は大きな試練かもしれないけれど、あなた自身の人生が本当にスタートとするきっかけと受け止めましょう。お子さんの親権は、年齢からしても母親のものになる可能性が大ですから、そのためにも今後の生活設計をしっかりと考えなくては。養育費は、たとえ経済的には困らない状況でも、きちんと貰うようにしましょう。子どもにとっては、将来、それが父親の愛情の証となり、精神的な支えになりますから。

今は何も考えられない状況なら、お小遣い帳程度でも、日々のお金の出し入れ

離婚話が切り出されるまでは、大きな買い物の際には使っていました。携帯電話の通信費も、まだ夫の口座から引き落とされています。

病院に関する支出や実家の維持に関わる費用など、母が入院してから実家の家計については弟が金銭管理をしています。弟からは、病院に持っていく細々としたものの雑費などとして、月に10万円渡されています。でも、弟から渡されたものと、自分の口座から必要に応じて引き出したお金を区別して使っていませんし、月々これだけ以内で収めようという頭もないのが現実です。こうしてお話してみると、我ながら情けないですね。

◎まず、自身が大人になりたい

怒りや悔しさはあっても、夫自身にそれほど未練がないのは、もともと愛情が育っていなかったからなのかも。実は今、お互いに好意を感じている男性がいます。ひとまわり以上年上でバツイチ。実家の社員なので子どもの頃から知っており、会社と住まいが同じビルにあるため、毎日のように顔を会わせて何かと気にかけてくれるため、息子もめったに会わない父親よりもなついていきます。ただ、私はまだ離婚はしていないわけですし、自分でも親と夫に代わる次の保護者を求めるような気持ちで接するのだけは避けたいと思っています。今は不安定で、自分の気持ちに自信が持てません。

息子のためにも、今は自分がもう少し大人になることが先決だと言いつけています。

を少し細かく記録してみてもいい？ これから母子で暮らして行くために、どのくらいお金が必要なのかを把握&自覚できます。まだまだ十分とは言えませんが(ですから私が国会で働きかけています)、母子の暮らしを支える制度もありますから、お住まいの自治体に問い合わせましょう。同じような体験をした方のお話も、参考と力になりますよ。

新しい恋や出会いに臆することはありませんが、おっちゃんのようにケジメをつけてからの方がよいですね。

(円より子)



告知板

●近々の会合やイベントのお知らせです。
※申し込みや問い合わせ方法です
★お世話係さんから寄せられた近況報告です。



大阪:

概
メール

大阪ニコニコ離婚講座

原則、午後1時半～午後4時半まで、ド
ーンセンター(大阪市中央区大手前1-
3-49 Ⅱ06-6910-8500)で。参加費
は、講座:1500円、ミニ講座:500円

●7月15日(土)「離婚! あなたが悪い
わけではない」。

フェミニストカウンセラー:天野ひろみさん
体験もふまえ、自責の念から解放され
るためのポイントなどをお話します。

●8月はお休みです

例会

原則、奇数月の第4土曜日の午後、竹川
法律事務所(大阪市淀川区西宮原1-4-
15-602 Ⅱ06-6393-1331)、またはド
ーンセンター小会議室にて。変更の可
能性があるので、ご確認を。

●7月22日(土) 竹川法律事務所

※

★近況★

引退時期を逸して現役を続行中で、ノルマ
ややりたいことは今までも増してたくさん
あり、自分でも何でもこんなに忙しいのかと思う
ほど。目一杯スケジュールに追われる生活を
しています。そんな中、遊びの計画を持つこと
で、その楽しみを目標に励んでいるというこ
ろでしょうか。ただフルタイムで働き、おい
それとは有給休暇を取れない状況でできるこ
とといえば、週末に一日くらいプラスして、どこ
かに出かけるくらい。今年は5月の連休もハッ
ケ岳のログで過ごしました。

退職して何日でも何ヶ月でも気に入った土
地で、ゆったりとした時間を過ごしたいと思う
のはないものねだりでしょうか。母子家庭の
母として、働き続けて頑張り続けてきた身には、
心からなる願望です。そんな日が来ること。楽
しみにもう少し頑張ります。

愛知: WITH:

Ⅱ
メール

●7月15日～17日、長野県の豊科に
一泊旅行を計画中。

ご希望の方は早めにご連絡ください。
(定員あり)

※愛知の会は名前を「WITH」と称し、2ヶ
月に1度、会合やセミナーを開いています。
経験者による離婚相談も予約実施して
いますので、お気軽に声をかけて下さい。

★近況★

ここ一ヶ月の間にWITHの会員さんの中で悲し
いことが重なりました。ひとつは身内の中で自殺
を目の当たりにされたこと。借金苦によるもので
実弟の方です。もうひとつは20歳で「統合失調症」
の病名がつき、精神科に娘さんが入院されました。
どちらも残された者にとってつらい経験です。ほ
んとうに「弱い人には生きられない社会なのか?」
と実感します。困った時ほど助け合わなければと
思うのですが……お話を聞くだけです。

でもWITHでは、いつでもお話を聞ける場だけ
も提供したいと思っています。

東京:

Ⅱ&Ⅱ

●7月はハンド夏合宿(7/29・30、本紙
5ページ参照)のため休みです。

●8月26日(土)、18:00より、麹町付近
にて集まります。

※場所予約の関係上、連絡は8月24日
までに上記Tel&Faxへ。留守電の場合
は、名前・Tel番号を残して下さい。

★近況★

お世話人を引き受けて10年になりました。
一度だけの参加者も多いですが、その後お元
気ですか?

《お世話係さん訪問》

●香川のお世話係さんより●

5月末、ハンドの編集担当の藤岡さんが高
松に見えました。メールで「食事でも」と連
絡をいただき、高松まで出かけました。お腹
の具合がいまひとつで、疲れ気味でもあった
ので、2時間程度で切り上げるつもりでしたが、
とんでもない。初対面なのに前から友だち
だったみたいに話が弾んで弾んで……。結
局4時間半も居座りました。

人との出会いは偶然ではなく必然のよう
な気がします。50歳も半ばを過ぎ、新しい
出会いについて億劫になりがちだった自分を
反省しました。

※

●ハンド編集の助っ人/藤岡郁子より●

お世話係さんにお目にかかって思うのは、
さっぱりとした前向きの方ばかりということ。
聞き上手で、初対面でも胸襟を開いてくださ
るから、相談しやすいんですね。

四国方面の方に朗報。日野さんは中古マ
ンション(ビックリ価格!!)を購入されたばかり。
自宅で会合が開けるかも、だそうですよ。

各地のお世話係

仙台

群馬

埼玉

埼玉

静岡

広島

香川

福岡

福岡

熊本

大分

長崎

★一人で悩まず、気軽にお電話ください★

離婚と母子の110番 Ⅱ03-3261-1835

●基本的に毎土曜日:13～17時 ※7月29日と8月12日はお休みです。

※研修を受けた相談員が「無料」で相談を受けています。

面接相談

●原則 第1・第3土曜日:14時～15時半～

※料金:5,000円/50分(ただし2日前の木曜以降のキャン
セルは、キャンセル料2,500円がかかります)

※7月は1、15日、8月は5、19日を予定しています。

※お気軽に事務局(Ⅱ03-3261-1835)までお電話ください。

<購読料について>

購読料は次のいずれか。自己管理のもと、
期限切れの際にお振込みください。

①1年間3,600円(送料共) ②2年間まとめて前払いの場合、
7,200円を6,000円に。 ③出世払いもしくは免除(どうしても苦しい方
は、いつでも遠慮なく申し出て下さい)

[振込先] 各地の郵便局にて00140-6-120542 ハンド・イン・ハンドの会

ハンドからみなさんへ発信

現代家族問題研究所: <http://www.gendai-kazoku.jp>

円より子ネット: <http://www.madoka-yoriko.jp>

ニコニコ離婚ネット: <http://www.nikoniko-rikon.net>